

# 「神の智恵」

～知ることから智ることへ～

ヨハネ 1:14 ~ 16、コロサイ 1:6 ~ 12

## ■ 種蒔きと刈り取りの法則

去年よりも今年がどうであったかと言うのが信仰の歩みです。今年もふるさと創生プロジェクトの農業体験を行いました。この農業体験を大切にしている理由は、種蒔きと刈り取りの法則を基に神様がどの様に人生のプログラムを組まれたか学ぶために行っています。聖書の時代では、何度も失敗し、糶一つすらまともに育たない中、神様は「涙とともに蒔き喜び叫びながら刈り取る」プロセスを教えられました。年に一度収穫感謝の時をもちますが、当時は命がけのストーリーでした。もしその実を刈り取れなかったら生きる事が出来ない、種をまきその実を得るという行為は命でした。私達は対価を払って食べることで、それを学ぶ事が出来なくなったので人生を通して学ばせようとしてくれています。種を蒔いて刈り取るまでの一年のプロセスを見て私たちはきちんと学べているのでしょうか？私達はその時その時に起きた出来事の中で自分がどう決断しているかをもう一度考えなければいけません。神様が与えてくれた恵みの中で最善を選べたのでしょうか？

## ■ 神の恵み～生きるのはキリスト～ ヨハネの福音書 1:14~16

あなたが食べても飲んでも、寝ても起きても、苦しみ痛みでさえも、あなたがそこに道を進める時イエス様の姿が現わされると聖書は言っています。クリスチャンはどんな境遇の中にも良いし、苦しみが起こった時に笑っています。私たちは安全でも安心でもなく、平安を求めています。どんなことが起こっても、解決を与えて下さいます。解決にとどまらず、教育と訓練と成長と将来への祝福と恵みまで与えて下さいます。平安とはのりこえる道であり、神様が私たちに与えたいのは平安です。神様の前に私達が願うことは、どんな境遇の中にあっても神様がしようとしておられる恵みを見る事が出来る奇跡です。それを体験することで私たちが変わった証拠となります。

## ■ エペソ人への手紙 2:1~10

### 2章1節~4節

良い行いに歩む事が出来るのは私達が努力によって行うことではなく、それを恵みだと知った者がそれを行う事が出来ます。自らがしようとして行うとできず、自信をもってやっても覆されます。やっていたつもりがズレていて、周りには出来ているように見えず、自分自身が分かっているだけという事があります。悪しきものがあるのであれば、「私は豊かだ！満たされている！」と思わせておいて、現実はずでなくなるように仕向けているわけです。

### 2章5節~7節

神様を信じた私たちは、自分が努力してしようとしないうえ強くなります。努力しないためには、どうすれば良いか聞かなければいけません。そして、その時に大事なことは恵みであるを知っているかどうかです。

### 2章8節~10節

クリスチャン全ての人イエス・キリストのように生きるものと宣言したのであればクリスチャンひとりひとり全部の事にあきらめずに向き合わな

ければいけません。隣で私達の人生を狂わすようなことをするような人がいても、神様があなたを諦めない様にあなたも諦めてはいけません。

## ■ ①罪 sinからの解放

sin = S極とN極の間に自分 (I) がいるとアメリカの先生がメッセージされているのを聞いたことがあります。この言語がそのように成り立ったりはわかりませんが、確かにそうだと感じさせられます。間に自分があることが問題であり、自分が中心になっているから道を外してしまいます。一年を振り返ってみて、中心が自分になってはいなかったでしょうか？来年は中心に神を置く人生と一緒に歩みましょう。そうすれば自由になります。罪からくる報酬は死です。「私がやっているのに、周りはこうだ！」「私がこう思うのに、あの人はこう言った」等「私が」となった時点で私が中心となっています。「私が」を捨てなければなりません。「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。(ガラテヤ人への手紙 2:20)」

## ■ ②恵みへ感謝

「命を得ようとする者はそれを失い、それを失うものは得る」と聖書は言っています。死んだら終わりというのが悪魔が与えたこの世の法則ですが、神様は死ぬと生きてと言っています。死んでも生きる人生を歩む為、恵みに感謝しましょう。

## ■ ③恵みの分かち合い、御言葉に御声に従う

詩篇の119編には恵みを分かち合うことがどれだけ大事な事が書かれています。私達も、私達の人生の中でどん底の出来事が起こります。苦しみの中から、神様があなたに与えて下さった恵みを、苦しみの中にいる人達に伝えるのがクリスマスです。ヨセフはどん底でした。自分の許嫁が子どもを身ごもり死罪にあたるような出来事が起こりました。しかし、そのような出来事の中で神様に「彼女の中に宿っているのは神のことばである」と聞いたわけです。イエスキリストの受胎告知は、ヨセフにとって愛する者を失うという受難でした。受難は受胎でありその受胎は悪しきものがアダムとイブの時代に与えた呪いの種でしたが神様はそれによってイエスキリストという救いをもたらしました。神の言葉に「ハレルヤ」「アーメン」と従う言葉を用意しましょう。自分に死ねないと、起きている現実が目に行くため神の言葉はあなたの人生を変える事が出来ないものになります。この一年に感謝する事、あなたが神の声を聞いて、それが恵みであるを知って生きる事、その事を共に分かち合ってください。

(要約者:辻 総一郎)

(2018年12月30日)